



センターの活動予定等

- ◆4月1日～5日 オリエンテーション
- ◆4月中旬 プログラム説明会
- ◆4月27日～28日 ICLS講習会
- ◆4月下旬 卒後臨床研修センター一通信4月号発行



【報告1】症例発表会を開催しました

3月13日(水)18:00から、臨床第3講義室において平成24年度最後の症例発表会を開催しました。今回は1年目研修医の高橋健太先生、菊地ありさ先生、二田水千里先生、鹿野耕平先生、小林愛実先生の計5名が発表し、計45名の学生さんや先生方はじめ院内の関係者にご参加いただきました。今回の発表もみなさんととても素晴らしく大変有意義だったと思いますが、参加者投票の結果、二田水先生が優秀賞を獲得されました。二田水先生、おめでとうございます。



優秀賞の二田水先生

【報告2】修了式を開催しました



平成25年3月21日(木)18:00から、本院遠隔医療センター3階の研修室において、平成24年度の臨床研修修了式を開催しました。今年度の修了者は研修医8名、歯科研修医1名の合計9名で、残念ながらご出席できなかった先生もいらっしゃいましたが、大崎卒後臨床研修センター長からひとりひとりに修了証が手渡されました。研修医の先生方は2年間、歯科研修医の先生方は1年間の研修でしたが、ご修了おめでとうございます。そして、本当にお疲れ様でした。4月からはそれぞれ専門の道でご活躍されることを願っています。

【お知らせ】

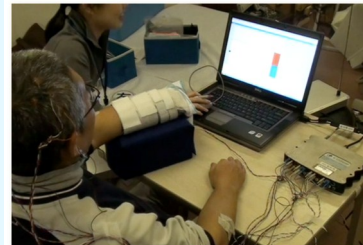
4月中旬に、医学科第5～6学年を対象とした卒後臨床研修プログラム説明会を開催します。日時や場所の詳細は、**学内メール**と**掲示板**でご案内いたしますので必ずご確認ください。

母校の紹介 第15回 リハビリテーション科

2011年6月、旭川医科大学病院にリハビリテーション科が誕生しました。医療の流れはcureからcareへと向かっており、今は患者さんのQuality of lifeを大事にする時代です。各種疾患の患者さんの二次的合併症を予防するとともに、心身に障害をもつに至った患者さんが有する能力を最大限に引き出し、元の生活(社会・家庭)にもどれるように、あるいは小児疾患の場合は、より良い発達に導けるように援助するのがリハビリテーション医療の役目です。運動機能障害はもとより、高次脳機能障害、嚥下障害、排尿障害など、基本的な生活をおくるうえで問題となる障害に対するアプローチを中心に行っています。

リハビリテーション医療はチーム医療であり、患者さんの治療には看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、義肢装具士、リハビリテーション工学士など多くの専門職との関与が必要です。より良い治療には、多面的に患者さんをとらえることが必要であり、多職種と関わることはとても重要です。多くの仲間とチーム医療を実践したい方にとってはリハビリテーション医療は最適な医療だと思います。

リハビリテーション医療は、超高齢化に向かうこれからの日本において最も必要とされる分野の一つであることは間違いありません。わが科は、道東・道北のリハビリテーション医療を担いつつ、世界に向かって発信できる科を目指しております。具体的には、ブレイン・マシン インターフェース(BMI)の技術を応用した最新の手法を用いた脳疾患の治療や、宇宙医学を視野に入れた重力軽減下での病態生理の解明、再生医療に必要なリハビリテーション技術の開発など、新しい分野への挑戦を精力的に行うつもりです。



BMIを用いた脳卒中の治療

当科は、まだ産声を上げたばかりですので、みなさんとともに大きく育てていきたいと考えております。時代のニーズに合ったリハビリテーション医療をわれわれと展開してみませんか。

【お問い合わせ先】 旭川医科大学病院 卒後臨床研修センター

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL:0166-68-2198 FAX:0166-68-2199

E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa-med.ac.jp

http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/ ※ホームページもご覧ください